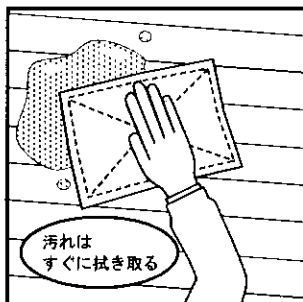


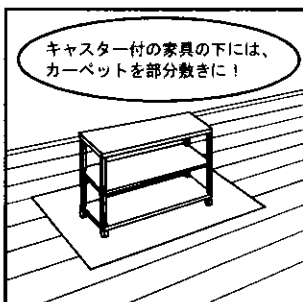
汚れ、水濡れ

ウレタン塗装の場合、製品の表面に耐水性に優れた塗装で保護しておりますが、長時間の水濡れは、製品のシミ、汚れの原因となりますので、速やかに拭き取って下さい。自然（オイル）塗装品や無塗装品は耐水塗膜が無いためウレタン塗装よりも汚れや水分に注意して下さい。また、キッチンや洗面所など、水をよく使用する場所にはマットを敷いてください。



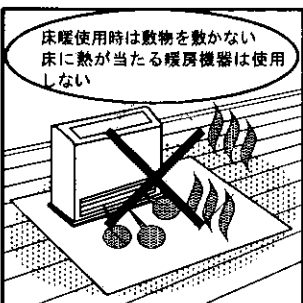
傷、重量物

傷防止のため、テーブルやイスの脚にはカバーをかぶせてご使用下さい。ピアノなどの重量物は、敷板を介して置いてください。キャスター付の椅子やワゴンは、荷重のかかった状態で動かすと大きなダメージを受けやすいのでカーペットを部分敷きして表面を保護してご使用下さい。



加熱

床暖房は、45～50℃（表面温度 30～40℃未満）でご使用下さい。床暖房使用時は、フローリングの上に絨毯などを敷かないで下さい。熱もりによりフローリングの隙間が大きく開いたり、色やけや不具合が生じやすくなります。また、高温になりすぎるため、電気カーペットやこたつ、ファンヒーター等のストーブ類は床暖房と併用しないで下さい。ホットカーペット・温風ヒーター・ストーブなどの熱が直接当たるような使い方は、目障りや表面割れ、変色等の不具合を引き起こすことがありますので避けてください。



色違い、日焼け

天然銘木のため1枚1枚色柄はことなります。製品カタログなど印刷物との間に隔たりがある場合もありますので、ご了承ください。また、木材は天然光線中の可視光線や紫外線成分を吸収して、自らも変色していきます。その結果として、光の当たった部分とそうでない部分で色が異なる状態が生じることもありますので、カーテンなどで遮るなどして、できるだけ直射日光に当たらないよう、ご配慮をお願いいたします。

メンテナンスについて

● 日常のお手入れ

乾いた柔らかい布でのから拭きで十分です。

＜ウレタン塗装＞基本的にはワックスを塗布する必要はありませんが、光沢等の美しさを保つためには半年に一回程度の木質フローリング用ワックス塗布をおすすめします。

＜自然（オイル）塗装＞半年～数年に一回程度、気になった時に、専用の木質フローリング用オイル塗装をおすすめします。

● 汚れたときのお手入れ

汚れた種類によって処理方法が若干異なりますが、最初はから拭きで除去を試み、それでも落ちない場合、ウレタン塗装の商品であれば、下記のようにお手入れをして下さい。

ウレタン塗装の商品	お手入れの方法	それでも落ちにくい場合
A. 油、ソース、マヨネーズ	家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使い、よく絞った雑巾で拭く。汚れが落ちたら、乾いた柔らかい布でから拭き。	家庭用中性洗剤の原液をつけた雑巾で拭く。汚れが落ちたら乾いた柔らかい布でから拭き。
B. ケチャップ、クレヨン、水性フェルトペン	布にベンジンをつけ、手早く拭く。汚れが落ちたら、乾いた柔らかい布でから拭き。	繰り返しベンジンをつけた布で拭く。この時、一度に落とそうとせず、時間を置いてから行う。
C. 油性フェルトペン	Bと同様に、布にベンジンを付け、手早く拭く。汚れが落ちたら、乾いた柔らかい布でから拭き。汚した直後であれば、消しゴムで落ちる場合もある。	繰り返し処理する。油性フェルトペンは完全に落ちない場合が多いため、つけないように注意。

床材 無垢フローリング ＜床暖房用＞ 施工説明書

施工完了後この説明書をお施主様にお渡しください

この度は、弊社製品をご採用頂きありがとうございました。

この無垢フローリングは天然木の性質上、保管状況、使用環境によって、反り、割れ、狂いを引き起こす場合があります。お施主様の快適な暮らしのために、必ずこの説明書をよくお読み頂き、天然木材の特徴をよくご理解の上、施工して下さい。

＜1＞施工前に確認

- 天然木材の性質上、膨張・収縮を防ぐために開梱した状態で必ず一週間以上放置し、十分施工現場環境になじませて下さい。

熱源は電気式、ガス温式ともにフローリングが303mm感覚で釘止め可能なもの、かつ、接着剤の併用が可能なもの、あるいは床暖房マットの小根太に釘止め可能なもの、かつ、接着剤の併用が可能なものをお選び下さい。

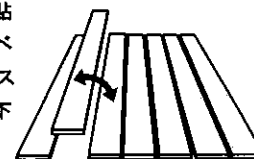
- 当製品は、内装用です。外装には使用しないでください。

- 換気口は、十分ですか。

※木造住宅 1階等に施工の場合、床下の換気が十分でない場合、施工後に「腐れ」「突上げ」「床鳴り」が発生する恐れがあります。十分な床下の換気処置をする必要があります。

＜2＞仮並べ

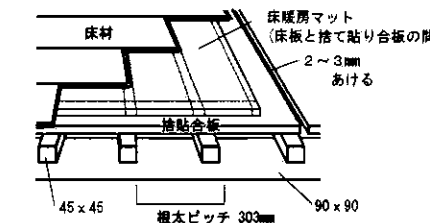
- 天然木ですので、貼り始める前に仮並べをし、・柄のバランスをとって施工して下さい。



＜3＞割り付け

- 極端に小幅が来ないように、貼り込み前に割り付けを行ってください。

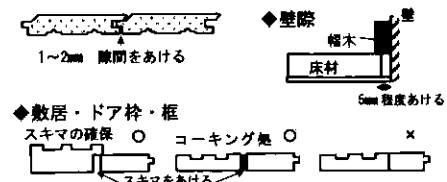
＜4＞下地施工



- 大引きは90mm角以上、根太は45mm角以上の乾燥材を使用し、プレーナーで平滑に仕上げて下さい。
- 大引き間隔は、3尺、根太は1尺(303mm)とし、レベル(水平)を出して施工して下さい。
- 必ず合板の捨て貼りをし、合板は12mm以上の合板を使用して下さい。また、捨て貼り合板の間は、2～3mmあけて施工して下さい。尚、床下の湿気が多い場合は0.1mm厚以上の防水シートを根太と捨て貼り合板の間にしき込んで施工して下さい。
- フローリングは合板と直交するように施工し長手方向のジョイントは目地が重ならない様にして下さい。



<5>貼り込み（接着剤の塗布）

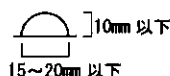


- 施工は必ず糊釘併用で行ってください。
- 貼り込みは、きつく締め付けると、無垢材の性質上、反り・突き上げの原因になります。
- 突を強く叩き込み過ぎると、無垢材の性質上、膨張時に反りが発生する場合があります。必ず同梱材の名刺大「すきまゲージ」(2枚/1梱包)を使って、ジョイント部にクリアランスをとって下さい。また、壁際は3~5mm程度、あけて下さい。

◆専用接着剤を床材裏面、あるいは床暖房マットの小根太上とその延長上及び端部のダミー合板部に塗布！接着剤の塗布を誤ると施工後の反り、突き上げ、暴れ等の原因になります。

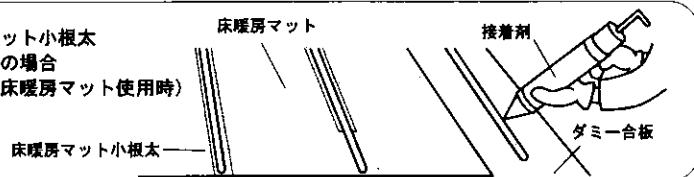
※推奨接着剤：フロー用ウレタン樹脂系接着剤

・床材裏面塗布の場合



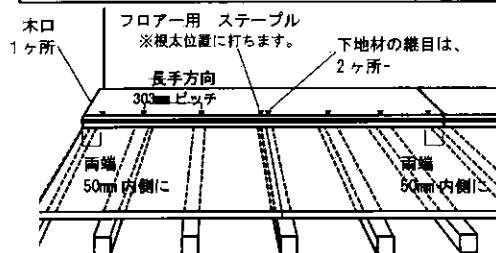
・床暖房マット小根太への塗布の場合

(小根太付床暖房マット使用時)



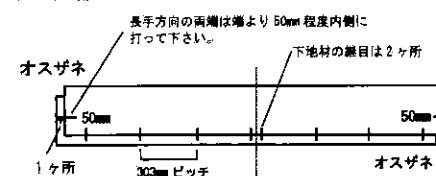
◆接着剤が床表面についたら すぐに 拭いてください。！接着剤は硬化すると取れません。

<6>フロー用ステープル or スクリュー釘で固定



◀ステープル固定例▶

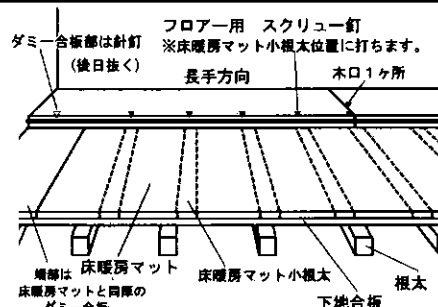
◆フロー用ステープルを打つ場所



◆フロー用ステープルの打ち方

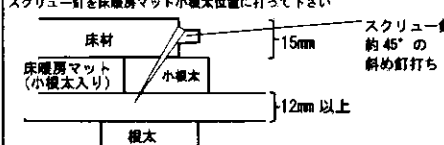
- ・ 約45°の角度で打つ
- ・ ステープルの頭を沈める。

1ステープルを立てて打つと、オスザネ下層が破損し、メスザネが入りやすくなります。ステープルを斜めに通すと、表面にフクレが起る場合があります。



◀スクリュー釘固定例▶

スクリュー釘を床暖房マット小根太位置に打って下さい



<7>施工ポイント（小根太付床暖房マット使用時）

- 根太貼タイプ
床暖房マットの上に1液ウレタン接着剤とスクリュー釘併用で仕上げます。(市販スクリュー釘38mm以上)
- 施工上の注意
 - 1液ウレタン接着剤と、スクリュー釘(38mm以上の釘)を使用して下さい。
 - 周辺合板を踏くよう割り付けして下さい。
 - 床暖房マット小根太とフローリングの板目が直交するように並べて下さい。
 - 部屋の端部においては、フローリングを端部の突合せ部から2~3mm隙間をあけて施工して下さい。
 - 部屋の端部(ダミー合板部)でスクリュー釘を打てない箇所は、ハリ釘で固定し、床材とダミー合板が接着剤でしっかり固定された後(約2日後)、ハリ釘を抜いて下さい。
 - 接着剤が床表面についた場合は、すみやかにシンナー等を含ませた布で拭きとって下さい。
 - 施工後は段ボールや合板を敷いて養生して下さい。(フローリングには養生テープを直接貼らないで下さい。塗膜が剥離する場合があります。)
 - 接着剤が完全硬化し、接着強度が出るまで5日以上(20℃の時)必要です。ただし、軽歩行は24時間(20℃)あれば可能です。また、温水マットの場合、通湯は、48時間以上経過してから行ってください。
- 施工手順
 - ◀準備>
 - 床下地が床暖房マットを施工しない状態で床として十分な強度を持つように施工して下さい。
 - ※下地は12mm以上の合板(JASタイプI)を使用。
 - 床暖房マット周辺部のダミー合板は、床暖房マ

トと同厚の合板(JASタイプI)を使用し、段差が無いように仕上げて下さい。

- 施工下地(床暖房マット、ダミー合板)は、掃除機などを用いて十分に清掃して下さい。
- ※特に床暖房マットの表面のゴミや油などは、十分に取除いて下さい。
- 板並べをして全体の色調のバランスをとって下さい。
- 床暖房マットの小根太とフローリングの板目が直交するように並べて下さい。
- 床暖房マットの小根太の中央にフローリングの短辺部の接線箇所がくるよう割り付けて下さい。
- 床暖房マットとダミー合板の境目には、フローリングの継ぎ目が重ならないように割り付けて下さい。

◀接着剤の塗布>

- 接着剤は、耐熱性に優れたメーカー接着剤を使用して下さい。
- 接着剤は、小根太の上面及び小根太の延長部の小根太のないマット部分に塗布して下さい。
- 塗布量目安、1㎡あたり300gを目安に塗布して下さい。

◀スクリュー釘打ち>

- スクリュー釘(38mm以上)を45°の角度で床暖房マットの小根太上にある雄突に打って下さい。
- 床暖房マットの小根太部分以外には絶対に釘を打たないで下さい。

<8>はき出し窓部の敷居のおさまり

- はき出し窓サッシへの納め、また敷居(同面)納めの場合は必ずクリアランスをとり、コーキング処理してください。

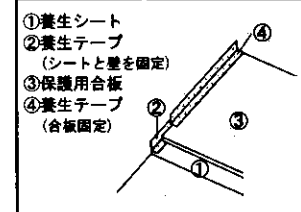
<9>養生

- 床面のゴミを掃除機で吸い取った後、水気を避け、乾いた雑巾でホコリを拭きとってください。
- 窓際は、石膏ボードの粉がたまりやすく、しかも木目に入るとほとんど取れませんが、壁際まで隙間なく養生テープを貼って下さい。

(注)フローリングには養生テープを直接貼らないで下さい。

！施工後に確認

- 施工の際、傷が入っていませんか？
- 養生は、完璧ですか？
- この説明書は、必ず施主様にお渡しください。



おことわり

床材表面に小さな穴が開き、木の粉のような物が出てくる場合があります。これは木部についた、虫害と考えられます。一般的に床材は製造工程で高温処理するため虫や卵は死滅します。その後の流通段階や施工後に外部から虫が飛来して産卵し虫食いが発生する場合があります。万一発生した場合は、専用薬剤を散布、注入するなど早期対応が必要です。専用薬剤はホームセンターなどで求めいただけますが、処理専門業者にご相談されることをおすすめいたします。